

輸送経済

THE YUSO-KEIZAI

第2846号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

5/19

平成21年
(2009)
(火曜日)
週刊

西日本売上比率3割に

名糖 運輸 関西物流センター稼働



沼澤 昭社長

日本の売上が約八割を占める。

10億円の原価
低減策を実施

東日本に比べ西日本輸

名糖運輸(本社・東京都武蔵野市、瀧瀬昭社長)は今期、北陸・東海から九州までの西日本の売上高比率を現行の約二割から、三割に伸ばす。

同社の平成二十一年三ヶ月の売上高は約四百九十五億円。うち北海道から関東・甲信越までの東

日本の売上が約八割を占める。

同社の二十一年三ヶ月決算は景気後退の影響を受け、減収減益となった。今期も景気停滞を見込み、減収減益と予想。

売上高は前期比二・

一〇減の四百九十五億四千四百万円。果汁飲料や牛乳関連などで十七億三千万円減収したが、飲料、

今年二月に大阪府高槻市の同社最大規模の物流センターが稼働。保管、仕分け、荷受けスペースを確保し、西日本での業

務拡大を目指す。営業利益は同三・八%減の八億四千六百万円、

経常利益は同一・三%増の九億四千百万円。減益となったが、計十億円の原価低減を実施。人材派遣など外注委託費を三億三千万円、人件費を二億六千万円、運行費を二億六千万円、運行料・修繕費)を一億五千万円、備用利用減少で一億三千万円。当期利益は同三六・七%減の三億三千五百万円。関西物流センターの開設などで二億円の特別損失を計上したため。

二十二年三ヶ月は売上高四百八十五億円(前期比二・一%減)、営業利益八億八千万円(同五・四%減)、経常利益九億九千万円(同四・四%減)、当期利益四億五千万円(三四・三%増)。